経済産業大臣賞（優秀賞）

水と龍といのちをつなぐもの

千葉県　翔凜中学校　一年　江口　明祐希

私達の生活に欠かせない「水」。毎日あたり前のように使っているけれど、水がどこから来て、どんな思いがこめられているのか、意識することはあまりありませんでした。今回、水について自分で調べてみて、自然や神さま、そして地域の人々の思いが深くつながっていることに気づきました。

私の住んでいる千葉は、利根川水系の水に支えられています。利根川は、群馬、埼玉、千葉、東京など、関東の広い地域に水を届けている大きな川です。山に降った雨や雪が長い時間をかけて川となり、ダムにたまり、水道管を通って、わたしたちの家庭に届いています。この水がなければ、料理も洗たくもできないし、お風呂にも入れません。水があることが、どれほどありがたいかをあらためて実感しました。

調べていくと、水と信こうが深く結びついていることもわかってきました。昔の人は、水には神さまの力がやどると考えていて、特に「龍神」という神さまが大切にされてきました。神社やお寺のちょうずやでは、龍の口から水が流れていて、それで手や口を清めてから参拝します。自然と共に生きてきた日本人の感謝の気持ちのあらわれだと思います。

私がとても感動したのが「忍野八海」という場所の話です。山梨県にあるこの場所には、富士山に降った雪が何万年もかけて地下を通り、ろ過されてわき出した池があります。その水はとてもすき通っていて冷たく、まるで龍の息づかいが聞こえてくるようです。昔から人々はその水を生活に使いながらも、神さまの宿る場所として大切に守ってきました。水を「ただの資源」ではなく、「神聖な存在」として見つめる日本人の心が、そこには今も息づいています。

こうした信こうは、遠い場所だけのものではありません。実は、わたしの通っている学校、翔凜中学校のしきちにも「浅間様」がまつられています。この神さまからの水がわいて出ているのが、学校の下にある「大堰」であると言われていて、地元の人たちが昔から稲作や生活用水に使ってきたと知り、とてもおどろきました。私が毎日通っている学校の場所にも、神さまが生み出す水と人々の信こうがあるのです。

そして、その水への感謝の気持ちを伝えるのが「神さまのお祭り」です。水を与えてくれる自然や神さまへの感謝、それを守ってきた地域の人たちの思い。お祭りは、にぎやかで楽しいだけでなく、そうした心を伝える大切な行事だと気づきました。

今、地球温暖化の影きょうで、世界中で水不足の問題が起きています。雨の降りかたが不安定になり、ダムの水が足りなくなることもあります。また、私達の生活を支えるＡＩやクラウドなどの技術も、便利な一方で多くの電力や水を必要とすることを知っておどろきました。特にコンピューターを冷やすための水の使用量はとても多く、私達が気づかない所で自然に負担をかけているのです。

便利な技術は生活を豊かにしますが、自然や資源を守る意識がなければ未来は苦しくなってしまいます。技術の恩けいとその裏にある影きょうを見つめることも、わたしたちにできる大切な学びです。環境を考えるとき、ただ「守ろう」と言うだけでなく、自然に神さまがやどると考える心が大切だと思います。山や川、木にも命があり、敬意を持つことで、自然と人はもっと仲よくできるはずです。

水は、いのちをつなぐもの。自然と人、人と人をつなぐもの、そして、見えないところで龍の力が流れているかもしれない、そんな神ぴ的な存在です。これからも神さまに、水にかんしゃし、自然を大切にしながらいきたいと思います。